



# Le Vert ル・ベール山の会

## 序章：村上龍「オールド・テロリスト」

男の高齢者の多くは、一般的に社会から軽視されている印象を受ける。女性の高齢者は、人当たりが柔らかく、考え方もフレキシブルだとされ、パートでもアルバイトでも、男より採用されやすい。高度成長を生きた元企業戦士の高齢者は、考え方が古く、成功体験に支配され、時代の変化について行けず、IT音痴で、頑固で保守的で、無能なのに長年会社に居座り、語るのは昔の自慢話ばかりで、意味も根拠もなく威張る、などと評される。

## 本編：沖縄チョイ住み

### 1. 真夏の沖縄に1ヶ月滞在

6月に2回のワクチン接種を終え、ホテルのワーケーションプランを利用して沖縄那覇市に7月1日より1ヶ月滞在。ホテル是那覇一番の繁華街「国際通り」にある。那覇国際空港駅からゆいレール（モノレール）を利用して県庁前で降りる。そこから徒歩で国際通りを歩く。午後8時ホテルに到着。翌日2日、梅雨明け。と、ともに強烈な日差しを浴び一時でも陰が欲しい。昼間の散歩は汗だらだらでホテルに戻る度にシャワーを浴び着替える。那覇市は思っていた以上に坂道が多い。その割に電動アシスト自転車の人を見かけない。「ちょっとそこまで」もマイカーを利用しているのだろう。夕刻になると結構強い風が吹き、陽が沈むと涼しい。夏至南風（カーチーベ）という沖縄地方夏本番の風か？ しかし、日中の直射日光は肌にぐいぐい差し込み住人でない高齢者には厳しい、暑さに弱い吾輩には真夏の那覇は住みにくい。

沖縄滞在中、北部にある美ら海水族館や今帰仁城跡に行く予定で、7日からの1泊2日の小旅行を計画しペンションも予約していた。出発直前、ペンションに電話を入れると「緊急事態が宣言され、あらゆる公共施設が閉鎖、閉館されました。朝食の用意は出来ませんが夕食の用意は出来ません。それをご承知ならどうぞお越してください」と言われた。那覇のホテルに居ても、ショッピングモール以外行き場がなく、部屋に引き籠もる毎日。ITで各種情報を検索。①嘉手納飛行場を目の前で見学できる道の駅のデッキは解放されている、②今帰仁城跡は閉鎖中であるが、受付で名城スタンプは押印できる、③辺戸岬の進入路の封鎖は解除されている、とのことが分かった。当初計画は見直したが1泊2日の旅には出かけることにした。往路、普天間基地、嘉手納飛行場を經由し東シナ海沿岸道を北上。万座毛、残波岬といった有名な景勝地への進入路は閉鎖されていた。海水浴場は全て閉鎖され数名のダイビング客は見かけたものの賑わいは全くない。観光・経済に深刻な影響があるのは明々白々。今帰仁城跡受付で名城スタンプを押印し備瀬のフクギ並木を散策。夕方、屋我地島（名護市）のペンションに到着。宿泊客は私1名。翌8日、5時に起床しエンゼルス戦をライブ観戦。9時半にチェックアウト。西海岸を北上し沖縄本島最北端の「辺戸岬」に行く。晴天波高低しの穏やかさ。吹き渡る風

の音も打ち寄せる波濤の響きも聞こえない。遠くに与論島が見え訪れた感じがした。太平洋岸を南下しやんばるの森を横断し名護許田インターから高速道に入り中部地区の中城まで移動。中城城跡事務所で名城スタンプを押印。ここからだと思えば野面積みの城壁は見えない。スタンプ押印という目的は達成。太平洋が見える高台の天然温泉にゆったり浸かり夜ホテルに戻った。1泊2日の小旅行ではあったが、巣ごもりから一気に解放され、気分も爽快になった。

9日以降また部屋に引き籠もる日が続いたが、12日に規制が一部緩和された。3週間の滞在証明書があれば図書館で図書カードを発行してくれる。これには大いに助かった。博物館もリオープンされ2回利用。1回で2時間は楽しめる。シニアは入場料無料。... コロナ感染拡大に伴い、1週間後には図書館での借本はネット予約が必要で本の受取は図書館入口となり、博物館は再び閉鎖された

巣ごもり中の大きな楽しみはテレビでスポーツ観戦すること。大谷フィーバーが物凄いののに、オリンピック開幕とともに大リーグの放送がなくなった。大相撲も18日が千秋楽。がっかり。楽しみが次々なくなり、小説を読みながら一日中部屋に閉じこもることがまた増えた。途中で帰ることも考えたが、台風6号で飛行機も欠航が続き帰るに帰れない。結局月末まで滞在することになった。

この1年間で金沢5連泊、熊本15連泊、沖縄30連泊をした。いずれも交通至便で繁華街に近い場所。15連泊まではそこを拠点に色々なところに出かけられ面白い。今回の1ヶ月連泊はコロナ感染拡大で施設が閉鎖され出かける楽しみが制限されたが、体力的にも限界のように感じた。認めたくはないが、寄る年波とはこのことか？ ウィズコロナの生活が日常になるまでは、我が家でのんびり過ごすのが一番だと知った。... と思いつつも煩惱は付きまとい、早や次はどこが良いかな！と「日本100名城に行こう」を見ながら旅先をイメージするのは楽しい。

## 2. 動機はノスタルジー

最初の沖縄訪問は学生時代の昭和43年の真夏。鹿児島港から船で一日かけて沖縄に行った。当時はパスポートが必要で日本人はBサイン店しか入店できず道路がやたらと広く国際通りは猥雑な賑わいがあり伊東ゆかりの小指の思い出がヒットしていたという程度しか記憶になく真夏の強烈な日差しの辛さも覚えていない。その後、1990年代に10回は訪れた。仕事場とホテルの往復でゴルフはしたが観光をしたことはない。今回の旅の動機は昭和43年当時の思い出探し？ かも知れない。計画立案時の沖縄はまだコロナ感染者が少なく、ホテル代が1泊2千円弱、飛行機代が往復1万円弱と費用対効果が大きい沖縄に逃避しチョイ住もうと思った。

## 3. IT と Wi-Fi

チェックインしたら真っ先に Wi-Fi に接続し IT 環境を整えた。ホテルで利用する限

りは通信料無料。携帯電話（＝スマートフォン）の Wi-Fi 接続は、IT 世代だけでなく今は誰でも簡単に出来る。スマートフォンに地図、交通、天気 etc. アプリをインストールしておけば便利この上ないし情報も簡単に入手できるし事足りる。パソコン接続は無線ランでもコンセントや配線コードなどを自前で準備する必要があり、メモか頭の中で配線図をイメージしながらになるのでちょっとだけ手間がかかる。IT 世代にこのようなことを言うと「当たり前や！」と小馬鹿にされるだろう。だから、分からなくても分かったように振舞うのが辛い。LINE は便利であるが、お友達設定など何度も同じことを孫に手助けしてもらおうような稚拙さで使いこなしているとは到底言えない。

#### 4. 電子レンジとコインランドリーは必需品

朝昼晩毎度の外食は疲れるし費用も高くつく。コロナ非常事態宣言下で外出も制限され部屋食も多くなった。そうやって来ると電子レンジが必要になる。「フロントの電子レンジでサトウのごはんを温めエレベーターを使って自室に運ぶ人をコンビニ飯派」というらしいが、どうもその輩に成り果てていたらしい。....サトウのごはんとカップ味噌汁と梅干があれば1食は賄えるし美味い。それに卵焼きかコロケがあればもうご馳走だ。

もう一つはコインランドリー。ホテルにコインランドリーがあり大いに助かった。乾燥機にかけてその後部屋乾しすれば汗臭い衣料の洗濯も苦にならない。if なかったら洗濯物を持ってコインランドリーまで往復せねばならず、恐らく洗濯中はそこを離れないことになっていただろうと思うとゾッとする。

**総括：**時と場所の選択に失敗した。若い人にとって沖縄は酒に料理に夜も長く楽しい観光地だろうと思う。小生の場合、年を取り過ぎた。